

令和8年4月22日

件名 市立美和病院への研修医官派遣及び飛行艇ミュージアムについて（事後）

概要 このことについて、防衛省から市長等へ説明がありましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1 日時：令和8年4月22日（水）16時20分～16時35分

2 場所：岩国市役所3階 政策審議室

3. 来訪者：防衛大臣政務官 吉田 真次（よしだ しんじ）

4. 対応者：岩国市長 福田 良彦（ふくだ よしひこ）
岩国市議会議長 片岡 勝則（かたおか かつのり）

5 説明の概要

（1）吉田政務官の冒頭発言

- 福田市長、片岡議長におかれては、日頃より、日米同盟及び自衛隊や米軍の活動について、深い御理解を賜っており、その上で岩国飛行場の運用に多大な御支援を賜り、この場をお借りして、心から感謝を申し上げる。
- 本日は、岩国市立美和病院への初任実務研修医官の派遣について、そして、米軍再編における空母艦載機移駐受け入れの際の地域振興策に関する要望事項の一つである基地を活用した航空博物館の建設、いわゆる飛行艇ミュージアム整備事業について、説明に伺ったので、よろしく願います。

（2）吉田政務官から説明

- はじめに市立病院への自衛隊医官の派遣について説明させていただく。
- 岩国市立美和病院に初任実務研修医官を地域研修の枠組みで派遣する方向で調整させていただき、本年6月から派遣を開始することが決まっている。
- 本件は、かねてより岩国市の病院への医官の派遣について要望いただいていたところ、防衛省も研修医官の臨床研修に適した地域研修先を必要としており、双方のニーズが合致したことにより、実現できたものである。
- 研修先となる美和病院での研修については、魅力を感じる研修医官が多く、令和8年度は1チーム6週間につき1～2名程度、延べ10名の医官を研修させることとなり、これは、岩国市からの要望である、通年で1名、延べ8名という派遣を上回る結果となったところである。
- 本研修は、診療に関する知識及び技能を錬磨するとともに、医官としての

次頁に続きます

資質の向上を図ることを目的としているものだが、同時に、岩国市における地域医療にも大いに貢献できるものと考えている。

- 次に、飛行艇ミュージアムについてだが、本件については、原田防衛副大臣が当時、「施設の整備には多額の予算が必要となり、防衛省として新たな広報施設を整備することは容易ではないと考えているが、要望を踏まえ、何ができるかをしっかり検討していきたい」とお伝えしたところで、その後、岩国市と防衛省において意見交換等を行ってきた。
- 飛行艇ミュージアムへの展示も念頭に、現在も海上自衛隊第31航空群の格納庫にUS-1Aが保管されている。
- 他方、この保管中のUS-1Aについては、強靱化事業による格納庫の建替え時期が迫ってきており、建替えが始まるとUS-1Aの保管が難しいことから、保管中の取扱いに関する判断が迫っている状況となっている。
- まず、防衛省・自衛隊の活動は、国民一人ひとりの御理解と御支持があって初めて成り立つものであり、分かりやすい広報活動を積極的に行っていくことは重要であると考えている。
- 現在、海自航空機に係る広報展示施設としては、鹿屋航空基地史料館を運営しているが、当該史料館においては、US-1A（おおとり）救難飛行艇1機を既に展示し、救難飛行艇の広報にも務めているところである。
- これまで関係各所と検討・調整してきたところだが、広報展示施設の整備に当たっては、建設費や維持整備に多額の予算が必要となる。
- 我が国が、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面する中、今後、新たな戦い方への対応や自衛隊員の処遇改善など防衛力を抜本的に強化していく必要があり、限りある財源を効果的に活用していきたいと考えている。
- このように、これまで種々検討を重ねてきた結果、飛行艇ミュージアムの整備について、「国による整備は難しい」という結論に至った次第である。
- 飛行艇ミュージアムの整備に関しては、米軍再編における空母艦載機移駐受け入れの際に、地域振興策として要望されたことは防衛省として重く受け止めており、結果として、岩国市の要望にお応えできないということになるが、何卒御理解賜りたい。
- なお、現在保管中のUS-1Aに関しては、岩国市の希望も確認をさせていただいた上で、例えばパイロットシートや操縦桿等の一部の部品を貸与して、現在、別の場所で市が整備中の博物館で展示いただくというようなことについても、可能な限り協力をさせていただきたいと考えている。
- 今後とも、地域振興に関する御要望については、岩国基地との因果関係も踏まえつつ、適切に対応してまいりたい。

(3) 福田市長からの質問及び吉田政務官からの回答

(福田市長)

- かねてより要望していた医師の派遣について、地域研修の枠組みとして、初任実務研修医官を本年6月から美和病院へ派遣いただくよう調整いただき、まずは心から御礼を申し上げる。
- 美和病院での研修に魅力を感じている研修医官の方が多いとの話を伺い、大変うれしく思っており、こうした評価を今後の美和病院のアピールポイントとして生かしていきたいと考えている。

次頁に続きます

- そこで、政務官におかれては、山口県の地方議会の御出身でもあり、県内の実情や、地域の特性にも深い御見識をお持ちのことと思われるので、特に、どのような点に研修医官の皆さんが魅力を感じていただいたのか、政務官の視点も含めて、何かあればお聞かせ願いたい。

(吉田政務官)

- 研修医の希望を反映したオーダーメイドの研修プログラムを作成してもらえること、あるいは、「楽しくなければ地域医療ではない」という病院のポリシー、そうしたものに魅力を感じる研修医官がいたと聞いており、私もその点は大きいのだろうと思っている。
- また、何より地域住民との交流の多さ、そうした機会というのも一つ大きな魅力なのではないかと感じている。
- 加えて、岩国市は歴史や文化も豊富であることから、医官としての本業とは少し違うかもしれないが、そうしたところにも魅力を感じた研修医官が多かったのではないかと、私自身は思っている。

(福田市長)

- 限られた研修期間になると思うが、地域に密着した美和病院での臨床経験を、医官としての今後の経験に役立てていただけたら幸いである。
- 本日、宗像院長も同席させてもらっているが、今回の研修医官の派遣は、医師の確保が困難である本市の病院事業にとっても大変大きく期待している事業であり、引き続きの御高配を賜りますよう、願います。

(4) 福田市長の発言

- 続いて、飛行艇ミュージアムについては、平成 21 年に、本市が国に要望した在日米軍再編に係る地域振興策の一つとして、「基地を活用した航空博物館」を国において整備されるよう要望を行ったものである。
- その後、岩国市議会、岩国商工会議所から本市に対し、国において航空博物館を整備することを求める要望等がなされ、令和元年に、当時の原田防衛副大臣に「飛行艇ミュージアム」の整備に関する要望を行ったところである。
- 今まで取り組んできた内容を少し披露させていただくと、官民が一体となって、キャスターの辛坊治郎氏の講演会や、飛行艇にまつわる企画展、さらには、「こども飛行艇教室」など、様々な取組を展開することで、機運の醸成を図るとともに、これらの取組を通じて、市民の皆様の自衛隊の活動に対する理解を深めることにも少なからず貢献してきたものと自負している。
- また、本日、視察されたと伺っているが、米軍と海上自衛隊の航空基地が所在する自治体として、これまで基地の安定的な運用にも協力をしてきたところである。
- こうした中での、本日の「飛行艇ミュージアムについて、国による整備は難しい」という趣旨の御発言について、先ほどの政務官からの説明を受け、国の事情は理解するところではあるが、これまでの地元の思いを考えると大変残念な思いが致すところである。
- 本日は、国の考え・方針はお聞きしたが、今後の対応については、改めて市として方向性を示してまいりたいと考えている。

次頁に続きます

- なお、国におかれては、この要望の原点である、「在日米軍再編に係る地域振興策の一つ」であることを改めて御認識され、空母艦載機移駐後の本市の負担と国防への貢献を踏まえた地域振興策の実現に向けて、これまで以上の御尽力を賜りたいと切にお願いするところである。

(5) 片岡議長の発言

- この度の自衛隊医官の派遣については、調整いただき心より感謝している。本市の地域医療の更なる充実に寄与するものと、重ねて御礼を申し上げる。
- それから、飛行艇ミュージアムについては、岩国市議会では、地方創生総合戦略調査特別委員会で、重点的に調査・研究を行い、施設の目的や概要などの取りまとめを行った上で、平成30年6月に、市に対して「航空博物館の施設提案書」を提出したものである。
- 市議会としては、飛行艇ミュージアムの整備により、本市が活性化され、地方創生が推進されるものとして、大いに期待していた施設であり、私も大変残念な思いである。
- 我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増し、防衛力を抜本的に強化していくため、限りある財源を効果的に活用すべきことは理解するが、空母艦載機部隊の移駐後の本市の負担や国防への貢献にも、きちんと寄り添っていただくようお願いする。

(6) 吉田政務官の締めくくりの発言

- 政府としては、国の安全保障のために適切かつ必要な施策を進めるに当たっては、当然、地元の皆様の御理解・御協力なくしては成り立たないものだと思っている。
- 皆様の御要望や御意見に耳を傾けながら、安全・安心の対策も同時に行っていかなければならないし、その上での地域振興策等も実現していかなければならない。
- 今後も、我々としても、全力でそうした事に取り組んでいきたいと思っているので、引き続き、御理解と御協力を賜りますよう、どうか心からお願いする。

6 市長コメント

本日は、「市立美和病院への研修医官派遣」及び「飛行艇ミュージアム」について、上記のとおり説明があった。

「市立美和病院への研修医官派遣」については、医師の体制整備の取組の一つとして昨年度から要望しており、本年6月からの派遣が可能になった。年間を通じて美和病院に研修医官がいる状態となり、病院における医療体制の充実が図られるものと認識している。

他方、「飛行艇ミュージアム」については、今日まで、整備の実現に向け、官民が一体となり様々な取組を展開することで、市民の理解を深め、機運の醸成を図ってきたところであり、説明を受け、国の事情は理解するところではあるが、大変残念な思いである。

改めて、空母艦載機部隊の移駐後の本市の負担と国防への貢献を踏まえた地域振興策の実施を要請するとともに、今後の対応については、総合的に判

断してまいりたいと考えている。

担当

岩国市総合政策部基地政策課

TEL0827-29-5024

FAX0827-21-3572

岩国市総合政策部政策企画課

TEL0827-29-5013

FAX0827-24-4209

岩国市健康医療部地域医療課

TEL0827-29-5011

FAX0827-22-8588

岩国市議会事務局庶務課

TEL0827-29-5190

FAX0827-21-1001